

第16回 地域医療連携推進協議会  
小児初期救急医療検討部会（ハイブリッド開催）  
（議事要点記録）

日時 令和4年12月9日（金）午後7時00分から  
場所 第一委員会室

<会議次第>

- 1 部会長等挨拶
- 2 報告・議題
  - （1）豊島文京こども救急事業の実績報告について
  - （2）子どもの救急・急病ガイドブックについて
  - （3）その他
- 3 閉会

<配布資料>

- 資料第1－1号 豊島文京こども救急事業実績（令和2年10月～令和3年9月）
- 資料第1－2号 豊島文京こども救急事業実績（令和3年10月～令和4年9月）
- 資料第2号 子どもの救急・急病ガイドブック
- 参考資料1号 文京区地域医療連携推進協議会設置要綱
- 参考資料2号 文京区地域医療連携推進協議会小児初期救急医療部  
会員名簿
- 参考 文京区平日準夜間小児初期救急診療事業チラシ

<出席者>

松平隆光部会長、保坂篤人委員、大塚宜一委員、  
細川奨委員、福永英生委員、松井彦郎委員、安藏慎委員、  
坂本美枝子委員、矢内真理子委員

<欠席者>

伊藤保彦委員、右近茂子委員

<オブザーバー>

寺崎仁地域医療連携推進協議会会長

<事務局>

渡部健康推進課長

<傍聴者>

0人

## 1 挨拶

渡部健康推進課長（事務局）；それでは第16回文京区地域医療連携推進協議会小児初期救急医療検討部会を始めさせていただきます。

本日はお忙しいところ、会議にご参加いただきまして、ありがとうございます。

事務局の健康推進課長の渡部でございます。よろしくお願いいたします。

今回は、オンラインでの参加とこちらの会場での参加のハイブリッド形式で行ってございます。ここからは松平部会長に進行をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

## 2 部会長等挨拶

松平部会長；皆さん、こんばんは。松平でございます。

大変お忙しい中、ご参加いただきましてありがとうございます。今、コロナの第8波の流行で、診療所・病院ともにてんでこ舞いだと思えますけれども、今日は忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

私、開業してしまして、文京区で小児初期救急患者さんからお話を聞きますと、比較的大きな問題もなく推移しておると思えますけれども、今日は先生方のご意見をいただきまして、よりよい文京区の小児初期救急体制をつくっていきたいと思えますので、ぜひよろしくお願いいたします。

それでは初めに、矢内文京区保健部長様よりご挨拶をいただきしたいと思います。

矢内委員；文京保健所長・保健衛生部長の矢内でございます。

委員の皆様には、本日は大変お忙しい中ご出席を賜り、ありがとうございます。また、日頃より文京区の保健衛生行政にご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

先ほど松平部会長からもお話がございましたけれども、コロナについては、第7波の流行が収束しないまま第8波の感染拡大が始まっております。インフルエンザにつきましてもやや流行の兆しが見られるということで、この年末年始に向けて私どもも準備を進めておりますが、文京区の小児初期救急医療体制、区民の皆様には大きな医療資源となっております。関係の皆様のご理解とご協力をさらに深め、本日は様々貴重なご意見を伺いたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

松平部会長；矢内部長、ありがとうございました。

続きまして、事務局より本日の出席状況の報告及び配付資料の確認をお願いいたします。

渡部健康推進課長（事務局）；それでは、まず事務局から本日の出席状況の報告でございます。

本日は、事前に全委員の皆様にはご参加いただくという予定で承っております。

また、本日はオブザーバーといたしまして、文京区地域医療連携推進協議会の寺崎会長に参加をいただいております。よろしくをお願いいたします。

続きまして、本日の配付資料について確認をさせていただきます。

資料第1-1号、第1-2号、第2号、参考資料1号、2号の計5点でございます。また、参考として文京区平日準夜間小児初期救急診療事業のチラシでございます。ご確認をお願いいたします。

それでは、恐縮ですが、ここで事務局を紹介させていただきます。

健康推進課係長の小倉でございます。

小倉健康推進課係長（事務局）；どうぞよろしくをお願いいたします。

渡部健康推進課長（事務局）；担当の勝山でございます。

勝山健康推進係員（事務局）；勝山でございます。どうぞよろしくをお願いいたします。

渡部健康推進課長（事務局）；同じく担当の谷地でございます。

谷地健康推進係員（事務局）；よろしくをお願いいたします。

渡部健康推進課長（事務局）；以上、事務局となります。

それでは、松平部会長、よろしくをお願いいたします。

## 2 報告・議題

### （1）豊島文京こども救急事業の実績報告について

松平部会長；それでは、次第2の報告・議題に入ります。

議題の1番、豊島文京こども救急事業の実績報告につきまして、事務局よりご報告をお願いいたします。

渡部健康推進課長（事務局）；それでは、事務局から豊島文京こども救急事業実績につきまして、ご報告させていただきます。

資料は2点ございます。資料の第1－1号でございます。

こちらは令和2年10月から令和3年9月までの実績でございます。

続きまして、資料第1－2号でございます。

こちらが令和3年10月から令和4年9月までの実績でございます。

10月から9月で1年間ということで作成してございますのは、こちらの事業が令和元年の10月から始まった関係で、こういった形で資料を作らせていただいております。

本日につきましては、こちらの資料1号、2号を直近の1年間とその前の1年間を比較するような形でご報告させていただきます。

主に資料第1－2号のほうを中心にお話をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

資料第1－2号、令和3年10月から令和4年9月の分でございますけれども、まず、こちらの上の表の左から3列目、1日当たりの平均の患者数でございますけれども、こちらは平均いたしまして1.46人でございます。その前の1年間につきましては1.38人でございますので、0.08のプラスでございます。特に一昨年につきましては、コロナが始まってちょうど拡大が始まった時期でございます、いわゆる受診の機会、外出の制限等がございました関係でその前の1年よりも減ったところでございますけれども、今回はこの1年間につきましては、若干持ち直したというところでございます。

こちらの隣の取扱患者数にも反映されておまして、ここ1年間では354人となってございまして、その前の年よりも19人プラスということでございます。

内訳でございますけれども、新来院の方につきましては38人のプラス、再来院の方につきましては、マイナス19人ということで、新しく来院されている方が増えているという状況でございます。

続きまして、隣の②時間帯（受付時間）でございます。19時台、20時台、21時台、22時台がございまして、19時台が昨年マイナス1人、20時台がマイナス4人、21時台がプラス20人、22時台がプラス4人となってございますので、ここ1年間につきましては、夜遅い時間帯21、22時台に増えているという状況でございます。

続きまして、隣の③の年齢でございます。0歳の方につきましてはマイナス7人、1歳から4歳の方はマイナス1人、5歳から14歳の方がプラス26人、15歳の方がプラス1人ということで、特に5歳から14歳の方が直近

の1年間ではかなり増えているという状況でございます。

次に住所でございます。豊島区の方につきましてはプラス8人、文京区の方につきましては6人ということでございます。また、それ以外の区の方につきましてはプラス5人となっております。こちらの住所につきましては、特に割合につきましてはあまり変わっていないという状況でございます。

次に、大塚病院の小児科医への引継ぎでございます。こちらは、子ども救急の時間を過ぎてからいらっしゃった方につきまして、救急対応ということで診療をしていただいて、まず左側につきましては、診療後に帰宅いただいた方につきましては、5人ということでマイナス6人となっております。あと、そのまま入院された方というのは2人いらっしゃいまして、こちらはマイナス1人でございます。

最後に、電話相談でございます。671人となりまして、こちらはプラス104人となっておりますので、電話相談につきましてもかなりの数が増えているという状況でございます。

この関係から、コロナ禍ではございますけれども、受診する方につきましては若干増えているという状況でございます。

資料第1号につきましてのご報告は以上でございます。

松平部会長；ありがとうございました。

ただいま事務局より資料第1-1号、第1-2号についてご説明いただきました。何かただいまのご報告につきまして、ご質問、ご意見がありましたらお受けしたいと思います。

ここ1、2年、大きな情勢の変化はないと思いますけれども、逆に言うと、患者さんの数は増えていないということにもなるとは思いますけれども、日頃診療している中でお母さん方やお父さん方に聞きますと、やはり文京豊島の子ども救急施設は非常にありがたいという言葉はよく聞いておりますので、十分地域医療に役立っているとは思っております。

ご質問ございませんか。ご意見、よろしいでしょうか。

## (2) 子どもの救急・急病ガイドブックについて

松平部会長；それでは、次に議題2、子どもの救急・急病ガイドブックにつきまして、健康推進課長からご説明いただきたいと思っております。

渡部健康推進課長（事務局）；よろしくお願いたします。

それでは、議題2の、子どもの救急・急病ガイドブックについてでござ

います。

こちらは隔年で印刷を行っておりまして、今年度は昨年度からの増刷という形で刷ったものを委員の皆様方に配付しているところでございます。

各年度の部会におきまして、委員の皆様方からご意見をいただき、ブラッシュアップをかけているところでございます。

直近では、イラストが少し古いということと見にくいイラストがあったということで、イラストを刷新いたしました。また、右側の端と各ページにも見出しをつけまして、より早く検索ができるような形にいたしました。

それから全体的にレイアウトを見直しいたしました。

こちらのガイドブックは、来年度が新しく印刷をする年でございます。したがって、また委員の皆様方から何かご意見等がございましたら、お聞かせいただきたいということと、もし必要でありましたら、また事務局からメールや、書面等でアンケートのような形で、委員の皆様方のご意見を伺いたいと考えてございますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

松平部会長；ご説明ありがとうございました。

今、ご説明ありましたとおり、表紙が少し若干変わりました、あと右のほうに内容の項目をすぐ分かるような形でご努力いただきました。実際、内容については大きな変更ございませんけれども、比較的このガイドブックは分かりやすく見やすい内容になっていると思っております。

何かご意見、ご質問がありましたらお受けさせていただきたいと思えます。

今、こういう小児の救急ガイドブックはいろんなところでできてまして、これだけを利用されているという方は少ないと思えますけれども、多少見やすいことでお母さん方の参考になっていると思っております。

何かご質問があればお受けさせていただきます。

今、事務局からもご説明ありましたとおり、来年度は再度印刷する時期になっておりますので、内容等につきまして、またご意見がありましたら事務局にお申し出いただきたいと思っております。

渡部健康推進課長（事務局）；部会長からお話がありましたように、委員の皆様方からご意見があるようでしたら、事務局から改めましてアンケート、意見をお伺いするという形でまたご通知を差し上げたいと思えますけれども、そういった方向で進めさせていただいてよろしいでしょうか。

松平部会長；今、事務局から発言がありましたとおり、内容につきましてで

できれば委員の先生方にもう一度ご検討いただいて、ご意見があれば事務局のほうにお申し出いただいて、さらによいものにしていきたいと思いますけれども、これにつきまして、ご質問、ご意見がありましたらお受けさせていただきますたいと思います。

よろしいでしょうか。

では、そのように来年度に向けてやらせていただきますので、ご了解いただいたと思っております。

ありがとうございました。

### (3) その他

松平部会長； それでは、次の議題3 その他になります。

部会員の皆様よりご意見、ご報告、情報提供等がありましたら、いただきたいと思っております。ここでは何でも結構でございますので、ご意見、ご質問がありましたらいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

松井委員； 東京大学の松井です。よろしいでしょうか。

松平部会長； お願いいたします。

松井委員； ありがとうございます。

日頃から、文京区の地域診療に皆様と関わらせていただいて、非常に整理されているなと感じております。ありがとうございます。

実は、私、昨日から発熱していて、今日コロナ陽性になって、リモートで参加させていただいている、そういう状況になっております。

文京区自体は一時診療が過剰というような感じがなく、私は埼玉で二次診療を外勤でやっているのですけれども、発熱が起こっただけで救急車を呼んだということも多くあり、そのような過剰医療がありますので、そういった意味でいうと、非常によい流れかなと思っております。コロナが第7波から第8波に入り、これからまたどうなるのかというのがよく分からないのですが、私も含めて、入院の診療しているスタッフが今、医師でも数名、看護師でも数名出ているような状況で、受入れが厳しいときもありますが、そこを何とかやりくりしながら文京区の医療を保っていければと思っております。

社会情勢としますと、コロナの管理自体がだんだん緩んでいくという中で、東京大学も少しずつコロナ病棟というものを廃止して、一般病棟でコ

ロナを診るようになっていて、そういうような変化があつて、その中でまた第8波がどうなるかというのは、ちょっと分からない部分がありますので、それも含めて收拾しながら、何とか医療を維持していきたいと思っております。

状況報告でした。以上です。

松平部会長；ありがとうございます。

今、貴重なご意見をいただきましたけれども、それに関連することでもよろしいのでご意見いただきたいと思ひます。

今言われたとおり、文京区は本当に恵まれていて、初期救急から二次、三次まで整っておりますので、文京区に住んでいらっしゃる方は非常に恵まれた医療環境にあると思ひますけれども、これから我々診療所が危惧するのは、インフルエンザがここ2、3年流行なかったもので、今年爆発的に流行すると、コロナとダブルパンチでかなり診療所でも厳しい状況が来るのではないかと思ひしております。そんなところを踏まえて、また何かご意見があればいただきたいと思ひます。

矢内委員；会長、よろしいでしょうか。保健所長でございます。

松井先生、貴重なご意見、本当にありがとうございます。コロナ対策に関しましては、区内の医師会、並びに区内の医療機関の先生方には大変お世話になり、ありがとうございます。

第8波になってから、発生届の対象が重点化されて4類型となりました。現在のところ、区内では、高齢者の方が重症化して、入院調整にかけるといふ症例も多くなっております。その中でも、お子さんについては、基礎疾患があるお子さん、また、ご飲食ができなくて高熱で熱性けいれんを起こしてしまう、あるいは脱水になるといったお子さんについて、医療機関での治療をしていただいているような状況でございます。

コロナ対策、これから変わっていく中で、先生方のご意見をお聞きしながら、私どもの小児初期救急医療体制も対応できるように先生方にご指導いただきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

松平部会長；どうもありがとうございます。

それでは、せつかくこの機会ですから、地域医療を担っている大塚先生と保坂先生から一言、現状が分かるようなお話をいただければありがたいと思ひます。

大塚委員；文京区医師会の大塚です。よろしくお願ひいたします。

日々の診療に関しては、それなりにコロナの方も来ていらっしゃると思います。お子さんが徐々に増えている印象が少しあります。インフルエンザも出ていますし、だんだん電話の問合せが増えて、診療検査、発熱外来が混んできている状況になっています。

基本的にご家族が発症して、濃厚接触者になって、そこで発症、発熱が認められて、恐らくコロナだろうとお家で診断されて、それでお薬とか処方するわけですが、そういったお子さん方が、呼吸が苦しいとか、前歴があつてどうしようという問合せが結構多く、そのお子さん方をその医院で診察できるかというとなかなかできない。そこで保健所を介して大きな病院の先生方をお願いするというケースが多いと思います。そういったところで先ほどの東京大学の先生であるとか、あるいはほかの大学の先生方にもお世話になっていると思います。

現実的には、第5類になって、普通に診療所に来ていただけるような環境になると、一番スムーズに流れるのかなと思います。今後の扱いの変化を注目していきたいと思っています。

私からは以上です。

松平部会長；ありがとうございました。

続きまして、保坂先生、自分の診療所の状況とそれからもし、医師会の中で会員の先生方からの何か声が上がりましたら、ご発言いただきたいと思っています。

保坂委員；第8波に関しては、7月の第7波に比べると、私は大分楽な印象があります。発生届を出さなくて済むようになったことも大きいですし、電話診療を駆使して、家族の診療は自宅で抗原検査していただいて、診断して、薬だけ出すとか。電話診療もうまくできるようになりましたし、小さい子どもに関しては、検査が自宅でできない場合もわざわざクリニックに来なくても、疑似症としてみなし陽性にしたりして、割とやり方はうまくいっています。

ただ、抗原検査のやり方を家族が間違っていて、すぐに検査すると陰性になってしまうので、受診の仕方もう少し啓発してもらいたいです。発熱してすぐ受診するのではなく、1日くらい経ってから抗原検査をすとか、PCRと抗原検査の特性を一般の人に理解してもらおうと、患者さんが受診する機会を減らすこともできるのではないかなと思っています。

以上です。

松平部会長；ありがとうございました。

地域医療の中で、我々実践で働く先生方の声を聞かせていただきましたが、大塚先生もお話しになったとおり、我々の手に負えなくなった患者さんはどうしても二次、三次の病院にお願いすることになります。私の診療所で一番ご迷惑をかけているのが大塚病院ですが、安藏先生、何かご発言いただきたいと思います。

安藏委員；大塚病院の安藏でございます。

私どもは、先生方からご紹介をいただいておりますが、幸い今のところそれほど混雑をしているという状況ではございません。

ただ、少し危惧いたしますのは、私事で恐縮ですが、今当院改築中でございます。小児病棟が来週早々に移転をいたします。今度は仮住まいということで産科病棟に行くのですが、コロナの患者さんに対応できる病床が、今陰圧にできる個室1床と、その隣の6床室を陰圧化して使っているのですが、今度はもう陰圧にできる個室1床だけになってしまいます。

なので、かなりコロナへの特に小児の方の対応能力が減ってしまうのが若干危惧しているところです。

さらに、そのほか、ネーザルハイフローが使えるような配管がある部屋も、今、6床ぐらいあるところが、実質4床ぐらいに減ってしまいます。そのうち1床は、新生児室用ということでもともとつくられておりましたものですから、入り口がすごく狭いので、小さなベッドしか入らないという制約つきが多いところに半年ぐらいいざるを得ないというところで、なるべくこの冬は、インフルエンザとかRSのような隔離を必要とする気道感染とコロナがはやってほしくないというのが、私どもの実感でございます。以上でございます。

松平部会長；ありがとうございました。

なかなか病院によって事情が違うと思うのですがけれども、新宿区のある大きな病院は、コロナの患者さんがいっぱいになって、小児科病棟の看護師さんがみんなそちらに行ってしまうと、小児科の入院が一時取れなくなったという現状がございました。小児科だけの問題じゃなくなっているような状況もございます。

それでは、順天堂大学の福永先生、何かご意見がありましたらお願いいたします。

福永委員；順天堂大学の福永です。いつもお世話になっております。

意見といいますか、当院での現状をお話しするほうがよろしいのかなと思います。当院ではコロナ病床があるのですが、これは小児のみではなく、

成人と小児を一緒に診ている病棟になりますので、やはり第8波になっての患者さんが増えてくると、病床数を増やし、落ち着けば減らすということで、小康状态的に増床、減床を繰り返している感じです。

第8波に入ってから、いわゆるコロナ感染症そのものでの重症患者さんは、私どものところには、幸いして今はいないという感じです。ただ、一般入院の中で、当院では入院前にコロナのPCR検査を全員やらせていただいているのですが、入院してから感冒症状が出てきて、もう一度調べたら陽性になる形もあります。やはり潜在的にはコロナ感染症、それなりにいらっしゃるのであろうなという印象で見えていますので、今後も動向を見なければいけないのかなと思っております。

当院、年末年始にかけまして電子カルテの総入替えというのがありまして、今日、院内での救急関連、重症系関連の会議がありまして、12月の30日から1月1日の昼ぐらいまで、重症患者さんの診療制限等がかかる可能性もありますので、最終的に決まりましたら、ホームページ等ないしは関係各所への連絡を出しますのでアナウンスさせていただきます。

以上です。

松平部会長；ありがとうございます。それでは、東京医科歯科大学の細川先生からもご意見いただきたいと思えます。

細川委員；東京医科歯科大学小児科の細川と申します。いつもお世話になっております。

開業の先生方、あと保健所もコロナの対応で非常にこれまでご苦労されてきたと思えますし、我々としては大変お世話になっていると思っております。改めて御礼を申し上げます。

私たちの病院は、3年前から積極的に成人のコロナ、特に中等症以上の方を受けていたのですが、子どもをなかなか受けてくれないという現状があったのですが、さすがに3シーズン目に入ると、成人の病棟も少しハードルが下がってきて、小児の受入れが少しずつできるようになったというところでは。

特に、第6波以降がかかりつけの患者さんで基礎疾患ありの人たちがかかるようになって、その中で受け入れられず、ほかの病院に送っていた人を多少なりとも受け入れられるようになりました。それから、看護師さんが診てくれる、協力してくれるようになったのが非常に大きいと思っております。

今、小児科の病棟では、原則コロナの陽性の方は診ておらず、専用病棟で診ていますが、予定入院で来た人が、入院前にPCR検査をやってはい

ても、入院してから発症するということが今年度散在しています。

あと、長期入院の方が多いものですから、付添いの方が入れ替わる中で、発症してしまう。そういった危ないところはあるので、その辺りはできるだけ注意をしながら対応しています。

私たちのところはERが積極的に救急車を受けていて、その中で小児患者、もちろん文京区内だけではないのですが、例えば一般小児疾患であるけいれんがなかなか止まらないとか、かかりつけでない方ももし依頼があれば受けられるようにはして、初期対応はするのですが、その受入れ病棟が受けられる場合と受けられない場合があって、その場合にほかの病院を探さざるを得なくなります。成人も同じかと思いますが、すごくハードルが高く、二桁ぐらいの件数をかけてやっとつながって受け入れてもらえるということが起きています。文京区内でどこか受けてもらえるところはあるのでしょうか。大塚病院の安藏先生いかがでしょうか。こういった初期対応をした方ですね。

安藏委員；病床が空いていれば、ご依頼いただければ受けさせていただけると思います。ただ、先ほども申し上げましたように、私どもも特に小児については病床がかなり限られておりまして、うちは感染症の病院ではないのですが、福祉保健局からは一定数を都立病院なので診てほしいということで、同じ病床で当初から診ております。皆様のご期待に沿えるかどうかはそのときの状況次第ということになっていくと思います。

以上でございます。

細川委員；ありがとうございます。またご相談をさせていただくときがあるかもしれませんが、ご協力いただければと思います。

もう一点、最初の文京区の豊島文京こども救急の報告事項を拝見していて、1日当たりの受診患者さんは1人ないし2人ということで、電話相談の数が去年と比べて、今年がかなり増えている数字が出ていて、ここでかなり逆にトリアージがかかっている、受診しなくて済んでいるのかなという気がしています。電話対応されているのが看護師さんか、あるいは当番をされている先生方でしょうか。詳細は分かりませんが、これはすごくありがたいことだと思います。先ほど保坂先生からもお話があったような、検査、熱が出たらすぐ来るという、まるでインフルエンザのときのような状況が今起きているというところもあるので、ブレーキかけるという意味では、電話相談を積極的にアピールしていくと、逆に少しトリアージができて、患者さんの保護者の方も安心できるのではないかなと考える次第です。以上です。

松平部会長；ありがとうございます。民生委員の方たち、今までいろいろお話ししてくださったことに対してでも結構ですので、何かご意見をいただきたいと思います。

坂本委員；民生委員の坂本と申します。今、電話相談のことがでていましたが、母親たちは子どもが、泣いてどうしよう、痛がってどうしよう、熱が出てどうしようというときに、電話相談を夜間にしていただけるのは、診療を受けなくても安心できるので、この電話相談は本当に助かっていると思います。

それから、テレビなどを見ていますと、コロナの80歳以上の方の死亡率はすごく高いのですが、子どもの死亡率は低くなっているようなので、子どもたちにとってみますと安心してよろしいのでしょうか。

松平部会長；子どもの重症度の度合いというのはなかなか分かっていないと思います。ただ、決して子どもだから全く軽症で終わる、安心で終わるということはないと思います。中にはやはり重症化する方もいますし、特に我々としては基礎疾患のある方、ぜんそくを持っている方は、十分注意なくちゃいけないし、数は少ないのですがやはりコロナの後遺症の問題も子どもにとって出てきますから、やはり軽くみてはいけないと思っております。

今、ご発言いただきましたことについて何かご発言ありますでしょうか。よろしいですか。

松平部会長；それでは、オブザーバーとしてご参加いただいている寺崎先生、何かご発言ありましたらお願いいたします。

寺崎協議会会長；寺崎でございます。昨年度から協議会の会長を引き受けております。

今年は2年目ということで、各部会の状況を拝見させていただこうと思ひまして、今日初めて参加させていただきました。どうもありがとうございます。

ご参加の皆様のお話を伺って、文京区それから豊島区の小児医療は随分と充実しているなという印象を深く持ちました。大学病院だけでも今日参加いただいている日本医科大学付属病院を含めると4つの大学病院、それから都立病院も、検討部会の中には入っていない駒込病院を含めると2つの都立病院がありますので、非常に充実した医療体制の中で、さら

には小石川と文京区の各医師会がかなりいろいろとお取り込みをいただいているという状況は非常によく分かりました。

会長だから何ができるというわけではないのですが、このような立場をいただいた以上は、ぜひ皆様方のお役に立てるようなことが少しでもできればと思って、今日、参加させていただいた次第です。

民生委員の方からもご意見をいただきましたし、それから事務局の文京区保健衛生部長・文京保健所長の矢内さんをはじめとして、様々な方々がこのような小児医療の地域における取組をされているということを非常に心強く思った次第でございます。これをぜひ親委員会でも共有しながら、さらによい状況をつくっていく、お役に立てればと思っています。

ただ、コロナの状況はまだまだ予断を許さないこともある中で、皆様方の現場での頑張りが非常に重要だということを改めて思いましたので、今後ともよろしく願いいたします。

松平部会も本当にご苦労さまでした。どうもありがとうございました。

松平部会長；お忙しいところご出席いただきまして本当にありがとうございました。

今日はいろいろご発言いただきました。豊島文京こども救急は、確かに1日当たり来院される数は少ないですが、これにはいくつか原因があります。一つは予防接種のおかげで子どもの重い病気が減ったということと、それから文京区民の方がかかりつけ医との連携がうまくいっていて、どういときに受診しなければいけないかということをよく把握していると思います。しかし、いざというときには、こういう施設があるということを目頃から記憶されておりまして、数は少ないですけれども、非常に区民の方たちには心強い存在になっていると思います。

我々実地医家にとってもこれがあることによって、ある程度時間外の対応が軽減されるということもあり、非常に助かっている次第でございます。

時間が残り少なくなりましたけれども、何かご発言があればお受けしたいと思っております。よろしいでしょうか。

### 3 閉会

松平部会長；今日は大切なご意見を十分いただいたと思います。これで閉会にさせていただきます。

皆様、どうもありがとうございました。